

インド

GDP (2020年10-12月)
3四半期ぶりに前年比プラス成長に回帰政策・経済センター
橋本琢磨
03-6858-2717

1 実質GDP成長率

2 産業別の粗付加価値

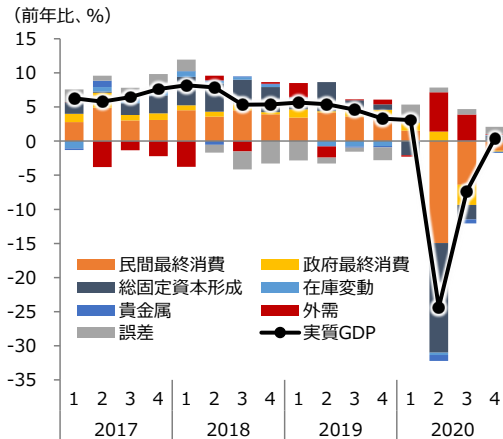
評価ポイント

今回の結果

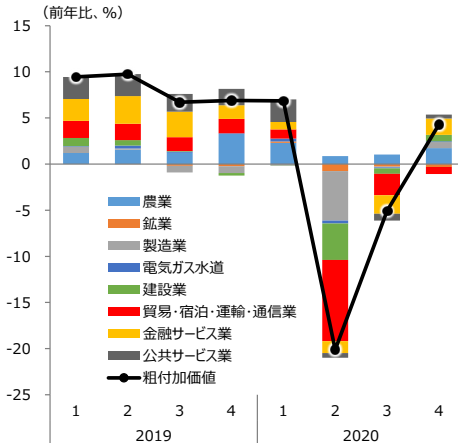
- 20年10-12月期のインド実質GDP成長率は前年同期比+0.4%となり、3四半期ぶりに前年比プラス成長に回帰した（図表1）。
- 需要項目別では、総固定資本形成が同+0.8%と4四半期ぶりのプラスとなった。一方、民間最終消費は同▲1.4%と3四半期連続でのマイナスとなった。外需寄与度は同+0.1%ptとそろってプラスとなり、輸出が同▲0.9%pt押し下げた。
- 産業別の粗付加価値では豊作の続く農業は同+1.7%とプラスが続く。また、貿易・宿泊・運輸・通信業と鉱業以外の幅広い業種でプラスとなった（図表2）。

基調判断と今後の流れ

- インドでは新型コロナの新規感染者数の抑制に伴い、企業活動を中心に緩やかな回復傾向にある。新規感染者数は21年2月以降1日1-2万人で推移し、10万人近くで推移していた20年秋頃から大きく改善している。
- 21年2月の製造業PMIは57.5となり、活動の拡大・縮小の境目となる50を7カ月連続で上回っている。また、20年12月の鉱工業生産指数は前年比+1.0%とプラスとなるなど、経済活動の正常化が進みつつある。
- インド政府は2月1日、21年度予算案（21年4月～22年3月）を発表、歳出総額を前年度比14.5%増の34兆8,324億ルピーとし、特にインフラ整備、ヘルスケア、農村開発部門に重点的に予算を割り当て、経済成長を促す計画だ。
- 一方、財政赤字が急拡大していることから（図表3）、電子機器部品や自動車部品など幅広い品目で関税引き上げを提案、保護主義の姿勢を強めている。
- また、これまでの経済低迷を背景に不良債権の急増への懸念が高まっている。ノンバンクの貸出に占める破綻懸念資産（要注意先、破綻懸念先、破綻先の合計）比率は、20年9月に総資産比で6.7%まで上昇している（図表4）。
- 20年度の成長率は前年比▲8.5%と予測、21年度は、世界経済の回復を受けての製造業の持ち直し等が期待され、成長率を前年比+9.0%と予測する。



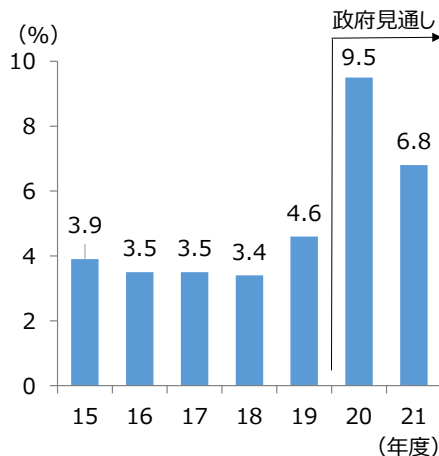
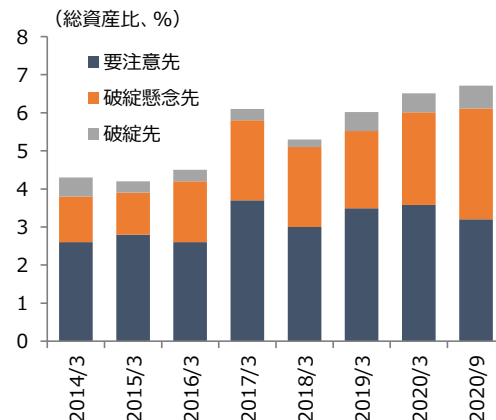
資料：CEICより三菱総合研究所作成



資料：CEICより三菱総合研究所作成

3 財政赤字 (GDP比)

4 ノンバンクの貸出に占める破綻懸念資産比率

注：「年度」の期間は当年4月から翌年3月。
資料：CEIC、インド財務省より三菱総合研究所作成

資料：インド準備銀行より三菱総合研究所作成